



はにわを1から作る！



太田市立太田中学校

2年B組10番 氏名 尾島 陸

1. 研究動機

僕は小学校の頃「おおたんの文化財探検スタンプラリー」で「塚廻り古墳群第四号古墳」に訪れたことがあります。そこにあった埴輪がとても細かいところまできれいに作られていて今から約1750～1300年前の人が機械もなしに人の力だけでどうやってつくっていたのか疑問に思いました。それをこの機会に思い出し、この研究を行うきっかけになりました。今回は古墳時代の人と同じように埴輪を1からつくってみました。昔の人は埴輪を作りながらどう思ったのか、どんなところに工夫を凝らしていたのかを自分でつくった埴輪と古墳時代の人がつくった埴輪の違いを見て見たいと思います。

2. 調査

1. 埴輪と群馬

はにわは古墳時代に作られた日本特有のもので3世紀から7世紀までにかけて作られました。はにわは祭祀や魔除けなどに使われ豪族や王族などの権力者の墓である古墳の上や周囲に並べられ、県内では平成24年から25年の調査で1万3249基の古墳の存在が確認されました。これから、群馬県は東日本で最大の「古墳大国」であったことがわかります。はにわは古墳の近辺に置かれるのではにわの数も多かったと考えられます。特に僕の住む太田市では天神山古墳があり東日本最題の大きさです。また飯塚町で発見された掛甲武人埴輪は国宝に指定されています。

2. はにわの作り方

本来なら粘土は山から採取し、素焼きは「野焼き」や「窯」を用いていたようですが自宅ではさすがにできないので、粘土は近所の公園の林から、素焼きは吉田明さんが考案した紙で窯を作る「ペーパーキルン」という方法で作ります。

3. はにわの制作

① 粘土質の土を採取

粘土質の場所を探し、バケツなどに土を採取します。(下) 採取した土は水をたくさん入れてよく混ぜ合わせます。塊はよくほぐしてから水に溶かします。



↑採取地

② 粘土抽出

数分待っていると粒子の大きい砂利や石が下に沈殿します。非常に細かい粒子だけが水の中に残るのでその部分だけを別の容器に移します。(下) 下に残った大きい粒子達はまだ使うので残しておきます。そしてそのまま1日以上置いておきます。



そうすると粘土だけ下に沈みます。(上)上に溜まった水はギリギリまで捨てて、残りは直射日光の当たる場所において乾燥させます。

③粘土作り

水分が飛んだら少しずつ水を足していき粘土が一つの塊になるようにしていきます。そこで水を入れすぎてしまうとまた乾燥させなければならないので注意して足します。塊ができたなら、まだ伸びが足りないのでひたすらこねます。もう整形ができると感じたら暗所で数日おいてさらに粘りを出します。

④砂利採取

残っていた小石、砂利を何回も水を入れて洗います。今回採取した土には砂利もたくさん含まれていたのをこの使いましたが、古人は河原で採取したようです。そして泥がほとんどなくなったら乾燥させてふるいに通してつくった粘土に混ぜ合わせます。



⑤整形

今回は群馬県前橋市朝倉町で出土した「埴輪男子倚像」をイメージして作りました。琴を弾きながら、笑みを浮かべている姿がなんとも素敵です。



つくった粘土を細長くして積み上げていき台座を作ります。その上に男子像をのせて
 せて下から順につくっていきます。(右上 午前中の成果 下敷きを置き場に...) あまり耐
 久性がなくなると窯の中や乾燥中に割れてしまうのでしっかり接着します。また上の
 理由から太刀や帯、手の指などは表現できませんでしたが特徴的な帽子、髪の毛、琴
 は作ることができました。(下 見えにくいですが) できたら暗所でしっかり乾燥させま
 す。



⑥素焼き

先述した通り古人が行っていたような野焼きや窯は作れないので、吉田明さん考案の
 ペーパーキルンという方法で素焼きします。(吉田明 七輪陶芸入門 主婦の友社発
 行 p95~p100) また、近隣の人に迷惑がかからないように注意します。まず、耐熱レ
 ンガの上にできたはにわを置き、燃料になる細材をかぶせてしまいます。その上にダン
 ボールを敷いて水に濡らした新聞紙を5~6重にして全体を覆います。(下)



そうしたら、着火して煙突から白い煙が出てきたら焚き口を閉じて細材を炭にして燃焼
 させます。数時間後、煙が青くなり煙突から炎が出てきます。



6時間後...

⑦完成



なんか黒いぞ!?

3.まとめ



違いは歴然、まず色が違う。その理由について調べてみましたが原因は酸素不足、または埴輪の大きさが紙窯の大きさにあっていなかったのが原因ではないかということでした。炭になった細材の炭素がくっついてしまったのが黒くなった原因と思われるのですが小さいから炭素が付きやすくなるというのは不明です。ちなみに参考にした「埴輪男子倚像」は全高72.6cmですが、真っ黒埴輪は全高14.2cmとおよそ5倍と全然違います。粘土が全然足りませんでした。

4.感想

今回はにわを作ってみて、古墳時代の人の凄さを目の当たりにしました。まず、粘土の量。今回僕は、粘土を600gほど作りましたが本物の埴輪はもっともっと大きいです。それに比例して採取する土はとてつもないほど多かったはずです。(古墳時代の人を実験したように粘土を作っていたのかは不明です) また埴輪についている太刀などの細かい飾りは、とても割れやすいのに当時の技術で細かいところまで素焼きされていたことに疑問がわきました。次は、古墳時代の人々が埴輪を作るときの工夫について調べてみたいです。そして今回は黒く手乗りサイズの埴輪ですがもうちょっと大きいサイズの埴輪にも挑戦してみたいと思います。

5.参考文献

書籍

吉田 明 七輪陶芸入門 主婦の友社 2002年

吉田 明 やきものをつくるすべてができる七輪道芸 双葉社 1999年

Webサイト

https://www.fcp.or.jp/mahoron/tenji/2004/akihaniwa_2.htm 埴輪ってなに

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9F%B4%E8%BC%AA> 埴輪 - Wikipedia

<https://www.city.isesaki.lg.jp/soshiki/kyoikubu/hogo/bunkazaihogo/shitei/kokoshiryo/2455.htm>
| 埴輪男子倚像 / 伊勢崎市

<https://bingo-history.net/archives/23492> 埴輪をめぐる古墳社会 (一)

https://www.pref.gunma.jp/03/c42g_00067.html 群馬県 - 「群馬HANIー1 (はにわん) グランプリ」投票結果発表!

<https://www.youtube.com/watch?v=exyzRtSfQcY> ① ~庭の土を3時間以上練り続けた結果...~ - YouTube